

第2章 自他と社会をみつめる

第1節 自己の差別性を問う社会科人権学習

1 討論によって、新たな価値を生成していく授業展開

私は、2000年度より2年間、鳴門教育大学大学院教科・領域教育専攻社会系コースにおいて、抽象的・観念的な取り組みに終始してきたこれまでの社会科における人権・部落問題学習（以下・社会科人権学習）を改善していくために、「共感」「分析」「批判」という方法原理から「内省」を目標原理とする社会科人権学習を提起し、具体的な授業展開を開発した。

それは、学習者が主体的に自己の生き方を「内省」する討論による展開を目指した授業である。この学習者に「内省」を迫っていく討論をより確かなものにしていくために、学習者の共感的理解と社会構造の分析が重要な意味を持つが、社会科人権学習においては、学習者の主体的な探求による「社会構造の分析」過程での深まりが重要なポイントになる。「社会構造の分析」が確かであれば、「行為への共感」も「行為への批判」も、抽象的・観念的なものではなく、その本質をつくものとして追究され、学習者は学習課題に寄せて、自分自身の考えを表現することによって、自分自身の存在を確かめ、問題解決への主体的な追究を始める。そして、その討論を通して科学的な社会認識を深めていくようになるのである。

そこでまとめた修士論文「社会科人権学習の改善」－「内省」を目標原理とする中学校社会科授業の展開－は、その方法原理である「共感」「分析」「批判」という学習の流れの中で、共感的理解の枠を超え、マクロな社会構造を分析した学習者の相互感化により、学習課題への合理的批判を可能にし、より確かな価値分析へと討論の質を高めていくことを目指した社会科人権学習である。

そして、その討論による価値分析の深まりが、価値を受容するだけでなく、人権尊重の社会を築いていく公民としての主体性を生み、学習者一人一人の討論によって、新たな価値を生成していく授業展開へと、主体的に社会科学習を創造していくことにつながるのである。

ここで「内省」を目標原理として取り組まれた中学校歴史的分野「江戸時代の身分制度」の学習を終えた3人の学習者のレポートを引用する。

人間の中に起こるストレスが差別をする行為によって昇華されていく

【昔は服装や結婚、生活全般について差別を受けていたけど、今は差別をなくす運動や取り組みの中で格段に差別は小さくなっている。それは、差別をなくす取り組みがあったからだと思う。もし、差別をなくしていく取り組みがなかったら、差別は常に拡大再生産されていったと思う。】

それは、差別というのは、為政者がつくり出すということもあるが、その時代時代を生きた人の中に、その差別をしっかりと支え、維持していく意識が常に潜んでいるからだ。今私たちの生活を見てもそのことはよく分かる。いじめることはいけない、差別することはいけない、そのことはみんな知っている。それなのに差別やいじめは起こっていく。それは一人一人の人間の中に起こるストレスが、いじめをする行為や差別をする行為によって、昇華されていくからと思う。

そんな差別の本質やいじめの構造をしっかりと自覚した中で、差別をなくしていくという運動や

闇いがなければ、差別やいじめが自然消滅することはないと思う。江戸時代の身分制度による差別を維持していく意識が、私たち一人一人の中にも潜んでいることをみんなでしっかりと点検しながら、差別やいじめのない社会、学級をつくっていく努力をみんなでしていく必要があると思う。それがこの学習をした意味だと思う。】

自分の中にある差別意識に気づき、共感し合える社会に

【私はみんなの意見を聞いていて、私に思い当たることが多かった。今の生活を見てみると、私も差別をつくっていることが分かった。「心と心を通わし、人間として認め合い、つながる」ということの大切さや難しさを考えた時間だった。

自分さえ、自分だけならという意識が差別を生み出していた。この意識は私の中にもあふれている。クラスの中で授業態度の悪い人や掃除をさぼっている人を注意したら、良い子ぶっているとか、何よあれというようにみんなの目が変わってしまうことがとても恐い。だからそれなら、その子と関わらないようにして、その子を切ってしまったら、自分には関係がないし、差別をつくらず、差別をされず生きていけると思ってしまっている。でも、それでは何の解決にもなっていないと思う。し、私のような意識が差別やいじめを残している意識なんだということに気づく。

クラスのみんなとの人間としてのつながりにおびえて、自分をごまかしていく生活ではなく、みんながそれぞれ思っていることを素直に出し合って、一人一人がキラキラ輝いて差別って何？いじめって何？って笑い飛ばせるような関係になっていくクラスのつながりやそんな世の中にあこがれる。

自分の中にある差別意識に気づき、心と心が通い合い、お互いの存在を尊敬し合い、本当に共感し合える社会だと差別はなくなると思う。けれど、人間としてつながっていくすばらしさに気づかず、口先の意見や心の中でこの子はダメだと切ってしまう関係になっていくと、ずっと卑屈な自分をごまかしていくだけの生活になって、お互いがお互いを心の底から認めたり、尊敬したりする世の中にはなっていかない。

私も口では平等とか差別やいじめをなくしたいとか、良い子ぶって言っているけど、実際の生活の中では、下を求める意識を持ち、弱い自分を見抜かれることを恐れてこそしてしまった自分がある。私は一度しかない人生を、多くの仲間と尊敬し合って共感できるつながりをつくり、一人一人が輝いていける関係をつくっていきたいと思う。

今日の授業でみんなが話してくれた「今」「ここ」にある差別の現実ということを心にとめ、まず今の生活から素敵に輝ける日を送るようにしたいと思う。】

身近なところにある不合理なことを解決していくことが問われている

【私は最も身近で、最も不合理なことがまかり通っているのが、男女差別だと思う。江戸時代の身分制度の根底にあったのも、男尊女卑の考え方があって、人々の中に異質なもの（違うもの）を排除し、差別する意識があおられ、身分の違いによる差別や特定の人に対する差別が、当たり前のよ

うに植え付けられていき、一人一人の中にある差別意識とその仕組みがつながり、差別は大きくなってきたと思う。

今の社会も身近な家庭の中に不合理なものを残し、自分に直接関わって来ないところできれい事をならべる。それでは、部落差別もその他の差別も根本的に解決しないと思う。母さんは食事の時、私と妹にだけ手伝いを言う。でも父さんには言わない。1回聞いたことがある。母さんに「どうして父さんはいつしょにやらないん？」と言ったら、母さんが「お父さんだからよ」と言った。「お父さんだったらいいの？」と言うと、「うん、なんせ、お父さんが一番家族の中で偉いから」と言われた。そりやあ、父さんは偉いけど、手伝いをすることと偉いことは関係ない。そのことが不思議だった。

昔から根付いてきた意識や価値観、そんな意識や価値観を変えていくのは難しい。でも、一人一人の身近なところにある不合理なことをしっかりとみつめ、考えていくことがすごく大事だと思う。自分自身の生活や行動の仕方、その中にある矛盾を点検していくこともしないで、差別をなくしましょうときれい事をならべても、人々の心は動いていかないし、その意識や価値観は変わっていかないだろう。差別の芽は、身近なところにあって、そのことに何の疑問も感じない感性が、差別を当然のように受けとめ、知らず知らずのうちに差別を許し、差別をしてしまう状況をつくってしまっているんだと思う。

この現実を自覚しながら、身近な問題をみんなで点検しながら、人間として誇りうる生き方をつかんでいくことが問われている。自分の身近にある現実、家族の中にある現実、そんな一つ一つをしっかりとと考え、しっかりと解決していくことが誰もがイキイキし、誰もが安心して生きられる社会をつくっていくことになると思う。】

2 自己や他者の生き方を批判的に吟味する

この3人の学習者のレポートは、「江戸時代の身分制度」からその差別構造を分析し、その分析を討論で深め、一人一人の具体的な生活の事実を語り合い、その事実が一人一人の内面を揺さぶり「内省」していく社会科人権学習そのものについて綴られたレポートである。

仮に授業者の押し付け（一方的な価値注入）があったならば、学習者は、人間として自らの差別意識から解放されていく楽しさを失い、その学習は一人一人の差別意識を洗う学習としての機能を失う。それは形骸化、空洞化してきた同和教育の取り組みの中に如実に現れている。しかし、学習者のレポートに示されているように、「内省」を目標原理として取り組まれた社会科人権学習には、その時代や地域を生きた人々への共感をベースに、その時代や地域の社会構造を分析し、その分析を通して「今」「ここ」を生きる自己や他者の生き方を問い合わせ、自己や他者の生き方を批判的に吟味することで、自己の生き方を主体的に内省することになり、「今」「ここ」にある差別の現実を解消していくこうとする追究がなされていくのである。

「内省」を目標原理として取り組むことによって、上記のレポートが綴られた中学校社会科歴史的分野「江戸時代の身分制度」の授業記録を掲載する。

【授業記録】社会科歴史的分野「江戸時代の身分制度」

主　題　　「なぜ部落差別は残ったのか」

－「今、ここ」にある部落差別の解消を－

1997年12月18日(木)第1校時

徳島県　板野中学校 1年A組

授業者　　森 口 健 司

1 江戸時代の身分制度の学習を通してみんなの中にどのような意識が残ってきたのか

T1 : 江戸時代の身分制度の学習が私たちに問いかけているものは何か。また、この学習を通してみんなの中にどのような意識が残ってきたのかを考えたいと思う。その意識の中には、「ああそんなかわいそうな人がいたのか。」「そんな苦しい生活だったのか。」「自分はそうでなくてよかった。」「自分は部落に生まれなくてよかった。」「『えた』『ひにん』とされた身分でなくてよかった。」そんな意識になった人もいるだろうし、本気でこんな差別をなくしたいと考えた人もいるだろう。江戸時代の身分制度について様々な事実を認識して今思うことをみんなで考え、この学習の意味について深めていくこれから的时间にしたいと思う。そして江戸時代、幕藩体制の中で成立していった身分制度によってできた差別が、どうして未だに残っているのかをみんなで考えていきたいと思う。昨日の授業の中で、みんななりにまとめたことを中心に、みんなの考え方や思いを語り合ってほしい。そして、身分制度を学習する意味について、今一人一人に何が問われているかをみんなで深めていけたらと思う。どうして部落差別が残っているのか。江戸時代の身分制度の学習を通して思うことを出してほしい。

2 自分さえよかつたらいいという考えに支配されてしまい、そこから差別は残ってくる

YA(男)この学習をして、差別が残っているということは、一人一人の意識から今まで差別が残ってきたと思う。江戸時代から厳しく差別されていてそこから根強い差別が始まり、人を傷つけ合ってここまでねばり強く残っているのはおかしいし、みんな生きていくのがしんどくなる。身分を決められて生活していくと仕事がしほられて、好きな食べ物が食べられないし、良い暮らしができないなど、この人たちにとってはごっついしんどいことだと思う。「自分より下があるけんいいわ」とか、そんな上下をつけていたら、自分さえよかつたらいいという考えに支配されてしまい、そこから差別は残ってくる。やっぱりこの学習が僕たちに訴えていることは、人を大切にし、尊敬し合える仲間をつくっていくことが、差別をなくしていく第一歩ということだと思う。

YK(女)差別が残ってきたのは、それぞれを上に見たり、下に見たりレベルをつけてきたり、それに「自分は部落に生まれんでよかった」とか、「こんなんあったんか」ってあまりこのことについて知らなかつたからだと思います。私はこんな差別を今しているなんてことは、恥ずかしいことだし、昔のことは昔のことで忘れようとしています。けど、今も差別が続いているんだから、この問題はしっかりと考えていかなければいけません。そして、この問題を学習する意味っていうのは、次の世代をつくっていく私たちがちゃんとした考え方をもって、差別をなくしていくこうと本気でやっていかないとこの世の中は壊れていくと思います。どんな立場に立っても、やっぱりしっかりとした考え方を持っているべきです。

3 人間的なつながりを断ち切られてきたことが差別を残してきた大きな原因

NN(男)僕が部落差別が今残っていると思うのは、やっぱり江戸時代の時に5人組の制度とかで、お互いの人間関係を悪くして、厳しい状態におかれた人たちが立ち上がることができなかつたし、もし部落差別やそんな間違った身分制度をえていこうと立ち上がっても、殺されるかもしれないということで、自分が輝けなかつたというか、その部落の人たちがその身分制度につぶされて卑屈になつたというか、人間的なつながりを断ち切られてきたことが差別を残してきた大きな原因だと思う。そして、今この世の中に部落差別が残っているということは、今この時代を生きている僕らや大人やみんなの心の中にある差別意識が差別をつくっていると思う。一人一人の人間が考えていくって言っても、差別意識を人の中から完全に取り除いていくこと

はできないと思う。でも、人間として揺れながらでも、差別意識をなくしていこうとすることが大事だと思う。ただ単に部落差別が悪いということではなく、自分を見つめて揺れながらでも、自分の中にある卑屈な意識を直していくことが、一人一人の心の中の差別意識を洗っていくことにつながるし、いろんな人とよりよい人間関係をつくることになっていくと思う。学校生活にしても卑屈になったり、消極的になったり、クラスの雰囲気に流されていくのはしんどいことだし、そんな状態が部落差別を残してきた社会とつながっていくと思う。部落差別と聞いたら、昔のこととか他人事としか小学校の頃は思っていなかったけど、実際、僕は部落に対する差別意識を持っていたし、僕はその自分の中にあった差別意識に気づくことで変わってきたから、これからもいろいろなことを学んで、人間として大切なことを考えていきたいと思います。

4 いろんなことを知って訴えていかなければ、どんどん差別は広がっていく

FA(女)私は昨日の社会の時間であまり聞けていなかったんだけど、部落差別が残ってきたのは、やっぱり昔の人が、その差別で苦しんできたり、その関係で上下の差とかも広がってきたし、その差別が今も残っているから、私たちの意識の中に残ってきたと思います。私が部落差別を知ったのは、やっぱり周りの環境からとか、親とかからで、部落差別が上から下へとどんどん伝わってきて、差別をするというのが残っているから、私たちはもっともっといろんなことを知って訴えていかなければ、どんどん差別は広がっていくと思います。

SH(男)今も差別が残っているのは、上の人が差別をするように仕組んだのもあるけど、今の社会と同じで、その時代を生きた人の中にも自分さえよかつたらという意識があつて、その意識が下のものをつくり、当然のように差別をするようになってしまったと思うし、そのために今まで段々と差別がもつれてきたと思います。僕らの中にも、あいつより上になってやろうという意識がなかなかなくならないし、なくしていくのは難しいけど、一生懸命考えてやっていけば大丈夫だと思います。

T2 : 今言ってくれた「人より上になってやろう」「あいつを追い越してやろう」ということは差別だろうか。

YA(男)違うと思う。

T3 : ほな差別というのはどういうこと？

5 競争する中でお互いを高め合っていくということがすごく大事

NN(男)誰かを追い越すというのは自分を高めるっていうことでいいかもしれないけど、その追い越した時点で、その人を蔑んで見たり、その人より上の立場になったから、自分より上にいた人を馬鹿にしたり、蔑んだりすることは差別だと思う。お互いに自分と競争していくというか、お互いに高め合っていくことはいいことだと思う。でも、お互いに競争する間に自分の相手に対する気持ちが差別につながることもあると思うから、競争する中でお互いを高め合っていくということがすごく大事だと思う。常に自分の心の目標とか、相手に対する気持ちを考えていくことが、自分の差別意識をなくし、自分自身を人間として成長させていくことになっていくと思います。

YK(女)私もそう思います。競争して自分より下にいた子が抜いてきて「ざまあ見てみい」とか思うんはあかんと思うけど、競争し合うというのは差別ではないし、競争することでやってやるぞという気持ちができるいけば、それはそれでいいと思います。

T4 : 一つ蔑むということを言ってくれたけど、差別というのは蔑んだり、あいつは相手にしないというよう無視したりして排除していく、人間的つながりがなくなっていく。そんな差別の意味について、何が差別なのかをもっともっと考えていく必要がある。何が差別なのかということがしっかりとわかってきたら、どうしてその差別が残ってきたのかがわかるだろうし、どうして差別してしまうのかもわかってくると思う。そして、そのことによって今自分に何ができるのかということにも気づいていけると思う。そのことについても意見を出してくれたらと思う。どうだろうか。

RF(女)部落差別の勉強をしたら昔のことだからと思ってしまって、今も同じ様なことをしていることに気づいていないから、差別が残っているんだと思います。

T5 : 「今、ここ」にある差別の現実を誰かのせいにして、自分の差別意識に気づいていない現実ってないだ

ろうか。

6 差別の現実を誰かのせいにして、自分の差別意識に気づいていなかった

YE(女)私も部落差別が残ってきたのは、昔のこととか、他人のこととか、差別の現実を誰かのせいにして、自分の差別意識に気づいていなかったから、どんどん人間の差別する意識は広まって、今も続いていると思います。

T6：今の発言を受けてつないでほしい。

NN(男)自分の差別意識に気づくっていうのは、一日一日を生活していたらこういうところがあかんのやつて気づくけど、その気づいたところで直していくっていうことが問題になっていくと思う。気づいて直すということは、本当に自分に厳しくしていかなんなら直していくんし、自分で気づけるとか、友だちから気づかされるっていうものもあるけど、差別意識に気づいたときに直していくといつたらいいんやけど、やっぱりそこでも直していくんのが人間だと思う。でも、すぐに直せんでも少しずつ直していくたらいんやと思う。それでも直していくんかったら、また知らんうちに友だちを差別したり、何か嫌なことを言うようになっていくと思う。やっぱり差別意識をなかなか取り除いていけんところもあるけど、人間は皆同じだと思うし、一日一日の生活中で自分が悪いと思ったところは少しずつ直していきたいと思う。それと、自分をよくしていくことやお互いを高め合うっていうことが、部落差別をなくしていくことになると思うし、お互いの関係が悪かったり、自分の思っていることが言えんかったら、周りの人に動かされて流されてしまって、やっぱり部落差別とか差別とかは生まれてくると思う。やっぱり、自分を積極的に出していくっていうことが大事だと思います。

7 自分を積極的に出していくっていうことが大事

CT(女)小学校6年の頃とかも差別をちょっとずつなくしていきたいって思っていたけど、余りなくなつてないし、自分の中でもそんなに変わってないし、もっと差別意識が自分の心の中にあるようになってきどるかもしれないし、自分の差別意識に気づくということはできてもそれを直していくことをあんまりしてないから、やっぱり自分の中でも差別はなくならんし、友だちの間でも嫌みを言ってしまいます。そんな自分に気づくことができるんやけん、直していくかなあかんと思います。

T7：具体的にどうするかということを考えていかなあかんということやな。

TS(男)僕もNN君が言ったように、自分の差別意識に気づいていかんといつまでも変わらないと思います。それと、自分の差別意識っていうのを僕も何とか直していこうと思うけど、急に直すということもできんと思うから徐々に直していきたいです。

HN(男)僕は部落差別が残ってきたのは、一人一人が部落差別の間違いに気づいていなかったからだと思う。

8 頭の中で誰もがいけないとわかっていることをどうしてなくしていけないのか

T8：間違っているということに気づいていなかつたんだろうか。ちょっと考えてみようや。差別はいかんとみんな知っていると思うんよ。みんな頭の中では差別やいじめはいかんとわかっているけど、差別をしてしまったり、人をいじめてしまう、そんな部分があると思うんよ。それはどうしてなんだろうか。みんなの人権作文の中には余りなかつたけど、部落問題の意見発表会の作文の中に、江戸時代はこうだったから私たちはちゃんととするという文章がよくあるけど、そういうものではないと思うんよ。今、現実にみんなの家族の中にある部落差別の現実をしっかりと捉えていくことがないと、ただ単に知識の量を増やすだけで、この学習は確かなものになっていかないと思う。どうだろう。正月に親戚の人がいっぱい集まつたとき、家族や親戚の人の中に結婚の話が持ち上がつたとき、みんなの家族やみんなの親戚の中に起こる会話の中に、部落差別の現実はないだろうか。親戚のお姉ちゃんが部落の人と結婚するという話が持ち上がつたときに、みんなの家族やみんなの親戚の中にどのような反応があるだろうか。部落差別の現実というと江戸時代の話をすると、今を生きる私たちの生活の中で、差別を肯定していく意識が空気を吸うように入つてき、部落差別

を温存している現実はないだろうか。どうして今、部落差別が残っているのか。頭の中で誰もがいけないとわかっていることをどうしてなくしていけないのかを考えていこう。江戸時代の身分制度を通して気づいたみんなの意識や意見を出してほしい。

9 自分を見つめて気づいた思いや実行してきたことをこういう場で言っていこう

NN(男)やっぱり差別に気づいたり、差別は悪いとか、差別したらあかんとかに気づくっていうことは簡単で、そこからどうしていくかが大事で、そこが一番の壁というか難しいことだと思う。その気づくことで、差別をしたらあかんっていうことで気づいて終わっても、やっぱり頭の中で理解しただけで、本当に自分がしないというのとは違うし、本当にそう思ったんだったら行動で示していかなあかんと思う。差別をしない自分をつくっていくために、自分の気持ちを語るということも大事やけど、部落差別のことを昔のことと思ったりする人とかがいると思う。そんな意味で部落差別をなくしていくためには「今、ここ」という視点に立つて、今現在自分がどのようなことをしているのかっていうことが大事だし、ほんまに今僕は友だちにどう思われているのかっていうことを考えていくことも、お互いの関係をよくしていくことにつながると思う。部落差別の現実に気づくということはすごく大切だけど、気づいたときその現実がどうなのかを考えていくことが必要になっていくし、考えたら行動に移さないかんと思う。人間は考えて行動に移していくことで、自分は今どんなことをしているのかを考えていくことが、人間として生きていく上でとても大切だと思う。僕は一日一日の生活を見つめ直すということで、毎日生活ノートを書いているんだけど、じっくりと自分を見つめていくことがすごく大事だと思うし、部落差別に対しても、自分自身の内面をじっくりと見つめて、そんな愚かな差別や絶対にしていかんという行動力を、自分を見つめることを通してつけていくことがすごく大事だと思う。そして、自分を見つめて気づいた思いや実行してきたことをこういう場で言っていかな、差別をなくしていくエネルギーというのはすぐに弱くなっていくと思うし、今実行している生活ノートもみんなでいろんな思いを出し合って、人間関係をよりよくしていこうとするから続していくと思う。いろんな思いを表現していくというつながりがなかったら、差別をなくしていく力も、生活をよりよくしていくとする力も弱くなっていくと思うし、その意味でこの学習はすごい大切だと思う。僕はやっぱり部落差別が残っているのは、一人一人が頑張れないということと、お互いの関係がそれほどよくないんと、各個人や一部の人はすごく頑張っているんだけど、全体的によくなっていくことを追求していかなければ、部落差別はなくなると思う。それと、差別意識っていうのは心の中には絶対におらんし、みんなが自分の差別意識をなくしていくという意味で部落差別をなくしていく輪を広げていかないと部落差別はなくなっていくと思う。実際、この世の中には部落というものが、どういうものなのかも知らん人もたくさんいると思うし、僕も水平社運動とか詳しいことは知らんし、その意味で知識っていうものをつけていかな周りの人の言うことや間違った考えを持っている人に左右されて、その間違った考えがその人の中に潜んでいる差別意識とつながって、部落差別をしてしまうようになっていくと思う。この部落問題学習っていうのは、先生がいうようにものすごく大事な学習だと思うから、この学習を通して積極的に行動していく自分をつくっていきたいし、この学習を通してみんなでみんなを高め合って、自分自身をイキイキさせていきたいと思う。僕はどのような場面においても、友だちと共に頑張っていくという姿勢がすごく大事と思うし、例えば100人のうち10人がむちゃくちゃに頑張っても、後の90人が無関心になったら、頑張った10人も段々しんどくなっていくと思うし、100人中100人が頑張っていこうとする姿勢があったら、最初はむちゃくちゃよくなくても、みんなで前向きに歩いていくことができていったら、ものすごい前進になっていくと思います。その意味において全体的によくしていかな、部落差別はなくならんし、一人一人の考え方が間違っていたら、もっとあかんのやけど、半分以上の人気がわかっていても、一部の人がわからんかったら、部落差別っていうんは、表に見えただけ隠れたところに根強く残っている。それが今の世の中だと僕は思います。だからこそみんなが関心を持って、みんなが行動に移していくように訴えていくことが必要だと思います。

TH(男)僕も差別はあかんとわかっているけど、実行せえって言われたら何をどうしたらいいかわからんし、も

し僕が徳川家康とかの身分だったら、農民とかに上下の差をつけるかもしれないから、何か実行せえとか言われても何をしたらいいか分からん。

10 差別とかしたらあかんと思うんやけど、友だちを仲間はずれにするときがある

HN(男)僕もたまに差別とかしたらあかんと思うんやけど、友だちを仲間はずれにするときがあるんで、そういうことをやめていってちゃんとしていきたいです。

HU(男)僕もTH君が言ったみたいに、差別をなくせって言っても、何をやっていいかわからんようになるんで、実行もできないし、何かいつのまにかほんなことを忘れてまた差別をしてしまうところがあつて、いざやれって言うても急にはできんし、どんなことをやつたら差別はなくなるんかなって思います。

NI(男)昔の江戸時代の人は、自分より下の身分の人に差別とかをしていたけど、今でも自分より下の子がいたら、その子を差別することっていっぱいあると思います。

11 部落差別を始めとする差別やいじめをなくしていくために、何をどうしたらいいのか

T9 : 今TH君やHU君が言ってくれたように、先生は「差別なくしましょう」ということを言うけど、何をどうしたらいいのか分からん。これが現実だと思う。この前も町民センターで小学生が「差別のない社会を」って順番に大きな声で言っていた。それはみんなも小学校の時同じ様なことをしていたけど、そんな訴えの中で「差別をなくす」という言葉だけは残っているけど、具体的にどのような生活をつくっていくことが問われているのかというところまでいかない。ただみんなで差別はいかんということを叫んだという事実しか残っていない。例えば、みんなが取り組んだ「教科書無償の闘い」という人権劇についても同じことが言える。その劇をやつたという事実が大切なではなく、その劇をみんなで演じたことを通して、その劇から何を学んだのか、その学んだことをみんなの生活の中でどのように生かそうとしているのか。そして、自分自身にできることや問われていることをしっかりとつかんでいくことが大事だと思う。今までの学習やこの学習の意味を考えながら、部落差別を始めとする差別やいじめをなくしていくために、何をどうしたらいいのかをみんなで考えていく。

12 みんなで堂々と自分が表現できるクラスや家族のつながりをつくっていく

NN(男)何をどうしたらいいのかということは、この板野中学校自体がその的となっていると思う。また、この授業っていうのも何をどうしたらいいのかっていうことを問いかけていると思う。この授業の中で今思うことを素直に表現できる関係にしていくことがすごく大切だと思うし、そういうながらも実際は、こんなこと言つたら後で何を言われるかわからんという意識に負けてしまって、自分をごまかして自分の中に嫌なものを残してしまう現実ってあると思う。この教室や学校の中にも、自分を素直に表現できん状態があつて、嫌なことがあっても嫌と言えないで我慢させられて、学校に来ること自体が楽しくなかつたり、嫌になつたりする。そのことが人を差別する芽を大きくしていくことになっていると思う。だから、学校自体の中にある不合理なものや矛盾を解決して、みんながみんなを堂々と表現していくことが、差別をなくしていくことになつていくから、みんなで堂々と自分が表現できるクラスや家族のつながりをつくっていくことが、今僕たちにできることやし、していかなあかんことだと思います。それでそんな自分をつくっていくためにも生活ノートやあゆみを通して自分を見つめていくことは、自分自身に対する自信や誇りを大きくしていくし、堂々と自分を表現していく力を育てていくことになつていて、友だちを大事にして、そこから共に成長していくことになっていくし、それが自分の差別意識を仲間と共に克服していくことにつながっていくことになると思います。だからこそ、みんなでいろんな思いを出し合う関係になって、お互いの関係をよくして、そこから仲間の輪を広げていくことが僕は大事だと思います。

T10 : 今の発言を受けてどうだろうか。

HK(男)僕も何をどうしたらいいのか分からんんだけど、生活をみんなでよくしていくことが大切なんだと思

います。

13 みんなの生活の中に誰かを排除したり、誰かを馬鹿にしたり、蔑んだりする現実はないのか

T11：やっぱりどういう生活にしていくかということなんだろう。普段の生活や友だちとの関係やいろんな人の関わりの中で、よりよい生活を築き上げていくことが問われていると思う。今みんなの生活の中に誰かを排除したり、誰かを馬鹿にしたり、蔑んだりする現実はないのか、そのことを一人一人が点検する。今日の生活の中で自分は、自分さえよかつたら、自分さえちゃんとしどったら、誰かがつらい思いをしていても、自分さえ傷つかなかつたらいい、自分さえ悲しくなかつたらいいという意識に押されて、誰かを排除していないか。今みんなが学校へ来るということは、いろんな仲間との関わりの中で、様々な問題を解決していく力を培っていくことだし、学校というのは人と人との関わりの中で、一人一人が輝ける人間関係をつくっていくトレーニングをする場だと思う。こんなこと言ったら陰で何を言われるか分からぬということにおびえて、うじうじする関係ではなく、本当に会えてよかったという感動を基盤に据えた語り合いや共感を広げていき、一人一人が思いつきり可能性を伸ばしていくことができる人間関係をつくっていく。それが差別をなくしていくために、みんな一人一人ができるのである、みんな自身が人間として輝くことになっていくと思う。みんなが今思っていること、堂々と語り合うこれからの時間にしようや。

14 一人ぐらいが頑張っても差別はなくならないと思ってしまう

MF(女)もし誰かが自分の差別意識に気づいても、一人じゃどうしようもないと思って、一人ぐらいが頑張っても差別はなくならないと思ってしまって、差別をしても仕方がないと思ってしまうと思います。だから、友だちといっしょにこのことを考えながら、共に差別意識に気づいて、共に差別をなくしていくことがやっぱり大切だと思います。

YY(女)差別をなくそうと思っていても、いけないと思っていても、実行に移せない自分があるし、私も何からやっていいのか分からないところがあるけど、そんなことばかり思っていると、嘘の気持ちが出てしまうから、先生が言うように本当の気持ちが言えないから、口で差別をなくそうと言ってもぜんぜんなくなるし、そのかわり自分の差別意識がどんどん大きくなっていくんだと思います。まず自分がどのような人間関係をつくったらしいのかを考えて、よりよい人間関係をつくっていくことを実行できるようにしたいです。

KT(女)差別をなくそうと言うけど、実際はしんどいことが多いと思う。なくそうとか言っても、差別を我慢してしまうことが多いし、やっぱり差別をなくすために、自分の思ったことを素直に言うことが大事だと思います。

15 毎日の生活ノートを通して自分や友だちとの関わりを見つめて卑屈な心をなくしていきたい

SS(女)差別が残っているのは、みんな昔のせいとか言ふけど、今の私たちにも原因があると思うし、みんな差別をなくすとか言っているけど、みんな何をしようかと思うことがある。私の場合も口先だけで、実際行動に移すとか言っても、何していいかわからんし、今の私だったら、なくそうと口では言ふんやけど、実行しようと思わないところがあるから、毎日の生活ノートを通して自分や友だちとの関わりを見つめて、そういう卑屈な心をなくしていきたいです。

T12：今、自分にできること、自分に問われていること、何をどうしたらいいかっていう部分もあるけど、そのことを点検していくことがすごく大事だと思うよ。今の意見につなげてどうだろう。

SI(男)差別なくそうとか言ふけど、やっぱり差別に対する意識があつたらなくならないと思うし、差別をなくすには行動で示すとか言ふけど、何をどうしたらいいのか僕にはまだ分からぬところがあります。

AY(女)私は生活を一日一日反省していったんだけど、一日に一回は差別したりしているので、それを直していくと思うんだけど、やっぱりそのまままでいいやとか思ってしまうし、自分自身何をどうしたらいいのか分からないので考えていきたいです。

T13：みんなでイキイキした関係をつくっていかなあかんと思う。朝の自習の時、誰かがしゃべり出した、誰

かが歩き出した、嫌やなあって思っても、その雰囲気に流されたり、そのことでいっぱいストレスをためてしまう。授業中、誰かがくちやくちや言い出して授業の邪魔になって嫌やなあって思っても、あの子は仕方がないと思って我慢してしまう。そんな関係でなくて、おかしいことが素直におかしいって言えて、みんなでみんなをよくしていこうという思いがみんなの中にあって、誰かを心の中で排除したり、蔑んだりしない関係をつくって、みんながみんなを輝かせる絆をつくりたい。そんな社会が差別のない社会なんだと思う。そして、友だちの存在が大好きって思えて、そんな友だちを認めていける自分も大好きって言えるそんなつながりをつくっていきたいと思う。どうだろうか。

16 みんなで素直に注意できるようなクラスをつくりたいけど

CT(女)授業中うるさいとき、私もうるさいことよくあるけど、うるさかつても誰も注意してくれんし、私もうるさい子や全然注意しよらんと友だちの中で陰口を言って、全然注意できんし、先生が言うようにみんなで素直に注意できるようなクラスをつくりたいけど、注意したら何を言われるかわからんし、またその子やの友だちの中で陰口を言われて笑われよったりしたら嫌やし、そんなん考えんでいいクラスをつくりたいです。
EI(女)元はみんな平等だったのに、いつのまにか身分がつくられて、差別されてきて、誰が偉いとか誰が一番ダメなヤツだと決めつけられてきたように、私たちの生活の中でも、こそこそみんないっしょにしてないとあの子に何言われるかわからんとか、恐いけんって卑屈になってきたと思う。中学校に入ったばかりの頃は、立ち上がって発表することもなかっただし、学活の時間はあたりませんようにとか、今でもときどき思うけど、みんなで思いきり発表して活気のある授業をつくっていきたいと思う。ある先生に1Aはうるさいとか言われるけど、おとなしくじっとしているより、みんなでいろんな思いを出し合って活気のある方が好きだから、みんなでけじめをつけて楽しい授業をつくっていきたいと思います。それが差別やいじめをなくしていくことにつながっていくと思います。

T14：生活そのものをイキイキさせていくことが、部落差別を始めとする差別をなくしていくことにつながっていくという意見について、みんなの考えつないでくれる。

NN(男)みんなで授業態度とかをよくしていこうとすることや、授業の中で分からぬことをみんなで分かり合ってみんなで伸びていくということは、クラスの一人一人がイキイキと生活していくことにつながっていくと思うし、1時間1時間の授業に自分を表現できて頑張れたという自覚が持てたら、授業そのものが本当に楽しくなっていくし、そんな授業をつくっていくことがクラスの人間関係をよりよいものにしていくことにつながっていくと思います。みんなで授業を含めた普段の生活をよくしていくためにも、今の授業態度をみんなでよくしていくように頑張っていこう。

17 みんなが輝けるクラスをつくっていくのが今の私の理想

YK(女)まあ何もかもこういうことはかたっ苦しく考えないで、楽しくやることが一番大切なことだと思います。昨日も三者面談の時、先生が楽しいにやれって言ってくれたし、私もうじうじしないでこのクラスで楽しくやっていきたいと思います。このクラスは私やみんなのクラスなんだから、みんなの心が通い合ってみんなで頑張ることができたら、みんなはものすごく輝いていけると思うから、これからも生活ノートを通して、自分のあり方を見つめながら、みんなとの生活や人間関係をよりよいものにしていくって、みんなが輝けるクラスをつくっていくのが今の私の理想です。

T15：イキイキするっていうこと、うじうじせんということ、堂々としているということ、絶対に仲間を切らないということ、卑屈にさせられることがないということ、今日のみんなの発言をみんな自身の中で自問自答していくこと。仲間を排除しないということは、自分も排除されんということやし、仲間を守るということは、自分も仲間から守られるということなんや。そんな自己点検をしながら、イキイキと輝いた仲間との関わりや自分自身をつくっていく。江戸時代の身分制度を学習した意味はそこにあると思う。終わります。